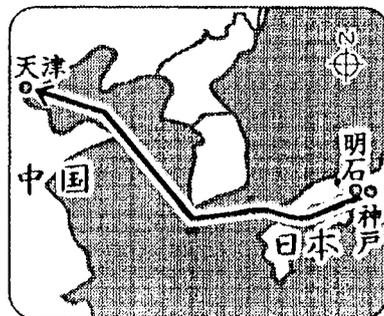


明石海峡大橋をくぐる。神戸発天津行きフェリーは週に1便、2泊3日の船旅となる

幼いころ、母に連れられ神戸発九州行きフェリーの出航を見に行った。当時の九州は新婚旅行のメッカで、棧橋には見送りの人がいっぱい。甲板と棧橋をつなぐ色とりどりの紙テープが美しく、大人になったら自分もこんな風に旅立ちたいとその時に思った。



1 旅立ちは神戸から船



まつもと・かずと 東大理学部地理学専修卒。旅行会社を経て旅ライター。ホームページ「旅して～世界206ヶ国&旅と暮らし」を開設し、著書に「耐えてアフリカ」（鹿砦社）など。現在、訪問国は214カ国となり、世界旅を継続中。

40年近くの歳月が流れ、ようやく結婚、新婚旅行に出ることとなる。幼いころの夢通り九州に行きたかったが、妻の夢は最低でも1年半はかかるアフリカ大周遊。新婚旅行は妻優先という信念もあり、大旅行が決まった。

唯一こだわらせてもらったのが、神戸から船で旅立つことである。時代は変わり、出発する人と見送る人が紙テープで最後まで繋がっている風景はもはや見られない。それ以前に、晩婚が気はずかしく、見送りを断っている。それなのに幼

いころの思いを一部でも実行したいと願ったのだから不思議なものだ。

港からは結婚式を挙げた六甲のホテルが見える。出航後しばらく平行に走る道は、自転車何度か往復した神戸明石間の国道。明石海峡大橋をくぐれば、生まれ育った明石の街。ゆっくと移りゆく景色を眺めていると色々な思いが込み上げ、船にすよよかったと心から思った。実は神戸からの国際航路を選べば最初の訪問国は中

幼いころの夢、40年の時を経て

松本様
5月12日 掲載分です。

国に決まる。中国からアフリカなら、ユーラシア横断、季節を考えアフリカの前に欧州周遊などと話し合いを進めるうちに、アフリカ大周遊案は大きな「世界旅」計画へと膨張していった。旅人生の終結だと思っていた結婚は、図らずも新たな旅の出発点であったのだ。それも今までにない大きな旅の。

(旅ライター)
松本和人